

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171800905		
法人名	株式会社 壽エンタープライズ		
事業所名	グループホーム草加		
所在地	草加市長栄2-20-1		
自己評価作成日	令和元年11月15日	評価結果市町村受理日	令和 2年 2月 3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階		
訪問調査日	令和元年12月 5日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな住宅地の中に当施設が立地している。施設犬や入居者様の散歩を通して近隣の方々と顔なじみになり、声かけあって挨拶をして頂いている。又、自治会の行事でクリーン作戦・防災訓練には入居者様との参加で、地域の交流を深めている。毎月第二土曜日にオレンジカフェを開催、脳トレ遊び・レクなどでリフレッシュ出来る場づくりをしている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは理念の中でも特に「地域に根差したホーム作り」を大切にしている。毎朝職員は唱和を行い、自然と地域の方と挨拶を交わすことで、利用者は地域の中の一員として交流している。また愛犬が近隣との挨拶や会話の仲介役にもなっている。全職員、勤続年数が長く、手芸や料理など得意なことを認め合い、それを支援に活かせるような職場作りをし、ホームの目標である「笑顔で元気に過ごす」に繋げている。また職員間、意見の言いあえる仲であり、情報共有ができることで不安なく支援ができる。昨年の秋からタブレット入力への導入により記録の効率化、情報共有、個人情報の保護等を図っている。災害対策にも力を入れ、利用者の防災頭巾を各部屋ごとに備え、職員は利用者が目につくように避難用ベストを準備し、利用者の安全確保に努めている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の夜勤者からの送り時に理念を唱和し、理念の共有化に心掛けケアに努めている。	毎朝、理念と目標を唱和する他、会議で取り上げ職員と共有している。ホーム長は特に理念の地域に根差したホーム作りに力を入れている。自然に職員は近所の方に挨拶をし、近隣との関係を良好に保っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し、地域のお祭りや初詣などで地域の方との交流の場を設けている。	自治会に加入し行事に参加している。特に地域の防災訓練では災害時に助け合う関係作りをしている。又外出時は、挨拶を交わしたり、近所の方からお花を頂いたり、地域の一員として日常的に交流している。	地域交流を更に深めることで災害時に助け合う関係を作ると共に、気軽にボランティアとして出入りしてもらい、利用者の話し相手になってもらえるような関係作りを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オレンジカフェを通して、認知症の勉強会や高齢者向けの体操などを行い、認知症への理解をしていただける様にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括やご家族様の参加により地域の情報収集や、利用者様ご家族様の意見、要望は業務改善やサービスの向上に生かしている。	2ヶ月に一回、オレンジカフェの同日に開催し、地域包括支援センター、家族、利用者等の参加がある。事業所報告の他、最近の情報の共有や家族からの悩みや対策を話し合い、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政へは月初の書類提出、相談事に対して適切なアドバイスをいただいている。管理者は直接訪問し、相談できる関係作りに努めている。	入居情報や運営推進会議の報告で行政に出向き行政からアドバイスをもらっている。電話やファックス、メールで、お知らせや研修案内がある。最近では災害時の注意喚起の連絡があり、災害対策を行った。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設け、各フロアや毎月の業務カンファで勉強会を行い常に身体拘束についての意識を持ち業務に取り組んでいる。	職員にアンケートを行い、結果を基に身体拘束廃止委員会で話し合いを行っている。特に言葉使いに関しては、気づいた時に職員間でお互いに注意し合い穏やかに会話ができるよう、気を付けている。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	接遇委員会が中心となり虐待の勉強会の実施や、意見Boxを設け、スタッフ間や外部の方からも意見ができる様にし、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている利用者様もあり、必要時には社協の方にも協力を得ながら支援している。又、市の後見人育成制度への協力もしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の申し込み時点で施設内見学や施設状況取り組みを説明し、同意を得ている。又、疑問点などあればその都度説明し理解をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご家族さまが意見ができる様参加への声かけをしている。又、面会時にご家族からの意見を聞ける雰囲気作り心がけている。	運営推進会議や、介護計画変更時に意見や要望を聞き、話し合いをしている。来場できない家族には手紙で来場を促している。利用者からは日々の会話の中から要望を聞き取り、それらを運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の業務カンファ、フロアカンファの中でスタッフ間の意見や情報を業務に繋げている。	月一回業務カンファレンスで意見や要望を聞く他、その都度私的なことも含め、話を聞いている。オムツ交換の方法について相談があり、上手な職員から習うことで安心して支援ができるような対策を行った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップを取り入れ、資格取得者には費用の負担軽減処置などを講じ、資格を取得し給与に反映させている。又、年間休日120日やシフトの融通性を持って就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ヒヤリングを行い、職員の抱えている問題を一緒に考え悩みを軽減している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホームの集い、連絡会議に参加し、情報の共有に努めサービスの質の向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実地調査でアセスメントを行い本人の困っている事や家族の要望に、どのようなサービスを提供していくのかを一緒に考え、安心して入居して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約時にご家族の困っている事、又、要望にも出きるだけ答えられる様、家族と話し合い相談ができる様関係作りに務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の要望を経てサービス計画書を作成し、説明・同意の上で支援を進めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事を見極めながら、日常生活に取り入れ一緒にお手伝いしていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や面会時、家族に様子を話したり、毎月の手紙の中で様子をお知らせする事で家族と一緒に本人を支える関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や身内の方々が気軽に立ち寄れる雰囲気作りに努め、食事に出かけたり散歩に出かけたりと家族との繋がりを大切にしている。	9時から18:00を基本としているが、19:00まで訪問可能とし、家族、元職場の同僚、友人が訪れ、居室やホールで談笑している。手紙や家族との外出等、関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士が会話や散歩ができる様お互い良好な関係が築ける様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、そのご家族が気軽に立ち寄れる雰囲気作りや、相談出来る体制作りにも努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での会話や思いを汲み取り、困難な場合は家族に協力を御願いし本人の思いに近づける様な支援をしている。	日常や昔を思い出せるような会話から、利用者の思いを把握している。伝えることが困難な方は、顔色や体調も含め職員全員がその方の思いを、「私の姿と気持ちシート」に記入し、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員は毎日の送りや共有のノートの中で利用者の心身状態を把握し情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスの中で問題点や改善点などを話し合い利用者の現状の把握に務めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望を元に定期的なカンファレンスを行い、その方に合った介護計画を作成し、必要時には随時見直しがされる。	入居相談後、本人と面談し本人、家族の要望を盛り込み、計画書を作成している。主治医からの細かい指示を盛り込み、居室担当者を中心に全職員で検討し、常に現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的なカンファレンスの中で、気づきや工夫などを記録しサービスの向上に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて行政や地域包括支援センターに相談し、可能な範囲で利用者様が満足して頂ける様なサービスに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会での行事への参加、ボランティアの訪問、などがあり一緒に楽しむことができる様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	3週間に1回の内科往診、週1回の訪問歯科・訪問看護が来設し健康管理をしている。又、近隣の医療HPと本人家族様、事業所との連携も取れている。	3週間に一回、内科の訪問診療がある。24時間、緊急対応可能で、医師の服薬指示や随時往診を受けることができる。週一回看護、歯科の訪問があり、処置を行っている。他科への受診も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ノートを活用し利用者の状態の記録で情報の共有、アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は面会に行き病院側と情報交換や相談する関係作りにも努め、円滑に退院できる様支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族様、往診医と話し合い十犯した場合や終末期のあり方については契約時に説明をしている。急変緊急時の対応にはスムーズに医師と連携が取れる様努めている。可能な限りできるところでのみ取り支援に努めている。	入居時に看取りに関してアンケートを行い、医療的なことを説明している。食事がとれなくなったり身体状況の変化時に、医師から説明を行い、家族、本人の意思を確認している。家族が悔いのないようにすることを一番に考え取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の消防署職員による応急処置の訓練を受け、応急手当や初期対応の方法を身につけている。又、防災係より定期的に応急手当での勉強会が行われ、実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行い、避難訓練、通報訓練、消化訓練をしている。又、避難先として近隣の施設との連携が出来ている。	年2回、消防署員立ち会いの下、アドバイスをを受け、昼夜を想定し避難訓練を行っている。備蓄品や手作り防災頭巾を準備している。毛布で担架を作り人を運ぶ方法や、避難方法を職員が身に付けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴や性格を把握し、声掛けの工夫や、性格を尊重した対応をしている。	書類等は、事務所内で管理し、個人記録はタブレット入力により個人情報の保護に努めている。声かけや言葉使いは、優しい声かけで丁寧な言葉で話すよう、一人ひとりの人格を尊重した対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との日頃の会話の中で思いや希望をを聞き支援に繋げている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理をしない、自分のペースで過ごせる様見守りしながら希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人に合った服装を選び、髪を整え男性は髭剃りをし、身綺麗にする支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事会の実施や、おやつ作りを一緒に行う機会を設けている。	天気の良い日は公園やベランダで食事やおやつを食べ、気分を変えている。旬の野菜を頂くと追加メニューで取り入れる。希望をとり入れた手作りおやつやイベント食、外食は楽しみの一つになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量の記録や、その人に合った食事形態をカンファして食事が摂れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週一回の訪問歯科で相談、指導を受け毎食後の口腔ケアに努め、夜間帯の義歯消毒を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを知る。声掛けやトイレ誘導により排泄の自立に繋げている。	排泄の声かけは、個々の排泄パターンに合わせて行っている。入退院後オムツが必要になった方に対し、一日一回はトイレに座るなど、起きている時間を多くし、自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部マッサージや牛乳・ヨーグルトの利用で予防に務めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤などを入れて温泉気分を出したり、希望に沿った入浴や、体調が良くない時は清拭、足浴などで対応している。	週2～3回の入浴を基本としているが、それ以上の希望も応じることができる。利用者に合わせて、歌を唄ったり、昔話をする等、楽しく入浴ができる支援を行っている。同性介助の希望に応じることができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の温度調整や不眠の方には、温かい飲み物等を提供し安眠できる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの症状をDr.に伝え、処方された薬は薬剤師より説明を受け、処方箋ファイルで全員が確認している。又、必ず服薬できる様見守りや介助で服薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設の行事への参加や、好きな飲み物を聞き提供している。また、スタッフと一緒に掃除・洗濯干し・洗濯物をたたむなどその人に合った役割で気分転換をの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩や、季節ごとドライブを兼ねてのお花見で外に出かける支援をしている。又、ご家族様と一緒に外食や、自宅への外出など本人の希望にそった支援している。	天候と体調に合わせ、散歩に出かけている。花を見ながら歩いたり、近所の方との会話を楽しんでいる。重度の方も外気浴を行っている。ドライブで紅葉やアジサイを見に行き喜ばれている。家族と外食やお墓参り、自宅へ外出する方もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コンビニへの買い物や、近くの喫茶店でオヤツを食べる事ができ、その際にご自分で支払いをする事ができる様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの手紙があり、年賀状を書いて頂けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の壁面には季節ごとの催しや、その月のカレンダーで季節を感じて頂き、温度や音が刺激にならない様な工夫をしている。	窓を開け空気の入替えをし、温度、湿度を適度に保っている。利用者はホールで思い通りに過ごしている。壁面には昭和のポスターを張ったり、季節の飾りをする等、その時代の思い出や季節を感じ、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりのペースに合わせ、気の合った人との会話を楽しんで頂くため座席の配慮や、テレビを観るためのソファを置き自由に過ごせるよう工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた馴染の家具や仏壇など、家族と相談しながら選んで頂き、居心地よく過ごせる様な工夫をしている。	使い慣れたラジオやテレビ、仏壇、家族写真が持ち込まれ、以前からの自分の部屋のように居心地良く過ごせる工夫をしている。夜8:00頃になると、ほとんどの方が部屋に戻り、ゆっくりと過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目で見てわかる様、トイレや居室の名前の張り紙、避難通路の掲示などで安全で自立した生活が送れる様工夫している。		